

巨大鉱物の石

岩石名

異剥石斑れい岩 Diallage Gabbro
(いはくせきはんれいがん)

時代 中生代ジュラ紀

地質区分 幌加内オフィオライト

産出地 和寒町福原



解説



和寒町福原の異剥石斑れい岩の露頭

濃淡のはっきりしたこの岩石は、「異剥石斑れい岩」という非常に希少な岩石です。鉱物の粒が大きく、劈開が発達しており、濃緑色で光沢のある輝石（異剥石）が多く含まれ、白色の部分は灰長石です。

上部マントルが部分的に融けて、非常にゆっくり冷え固まってできた斑れい岩が、さらに変成を受けたものと考えられ、和寒町の幌加内オフィオライトの蛇紋岩中に産出します。

この岩石は深成岩ですが、普通の深成岩に比べて、非常に大きな鉱物だけでできています。このような深成岩を特に「ペグマタイト」といいます。マグマが非常にゆっくりと冷え固まったという証拠なのです。

～ Coffee break ～ 異剥石

「異剥石」は、薄い葉片状銀灰色の金属光沢を持つ透輝石や普通輝石の結晶で、剥がれ方が不規則なところからこの名が付いたとされます。

さて、和寒の異剥石斑れい岩とほぼ同じような岩石が愛媛県新城市でも産出していますが、なんとそこではこの岩石が、市指定の天然記念物に指定されています。異剥石斑れい岩がどれだけ珍しい岩石なのかがわかりますね。

調べてみよう

- 輝石を取り出してハンマーで割ってみよう。細長い針のように割れていきます。これは、鉱物の「劈開」という性質によるものです。